

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏 名岡田美津子



下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者		経理責任者	
視 察 議 員	岡田美津子			
期 間	平成 30 年 5 月 16 日（水 ）～平成 30 年 5 月 17 日（木 ）			
視 察 先	千葉県柏市			
視 察 用 務	1、柏市での「脱いじめ傍観者教育」及び匿名報告アプリ「STOPit」の 取り組みについて。 2、柏市のフレイル予防施策について			
対 応 者	1、柏市教育委員会 2、柏市地域包括支援課			
概要及び所見	<p><u>1、「脱いじめ傍観者教育」及び匿名報告アプリ「STOPit」の取り組み</u></p> <p>平成 25 年 9 月に、いじめ対策推進法が施行され、学校だけでなく社会全体でいじめ問題に取り組む事が定められた。その様な中、柏市での現代の子ども達の状況に即した、いじめ防止対策を新聞で見て関心を持ち、庄原と三次の公明党会派のメンバーで視察させて頂いた。</p> <p>スマートフォンの普及などで、最近の若者が用いるコミュニケーション手段は SNS が圧倒的な割合を占めるようになっている。</p> <p>柏市では、千葉大学教育学部、柏市教育委員会、NPO 法人ストップイットジャパン株式会社との産官学の連携で考えられた、ネットいじめの早期発見と抑止力を生み出すための新たな手段として、傍観者の視点に立ち、ネットいじめを許容しない集団の雰囲気を作るための授業「私たちの選択肢」と匿名報告相談アプリ「STOPit」の導入をしている。</p> <p>DVD 付き冊子を教育教材とし、子供たちが脱いじめの傍観者の視点に立ち、いじめの予防や解決方法を話し合い考える授業を行っている。</p> <p>又、相談出来ない子どものセーフティーネットの一つとして、SNS アプリを使った匿名相談「STOPit」を行っている。</p>			

まだ始まったばかりだが、多くの相談が寄せられ子どもたちの声をしっかり吸い上げる事が出来、早期対応が出来ているとの説明を受けた。それと同時に、相談を受ける側の対応力、連携、人材の育成も必要だと話しておられた。

今後、本市においても導入していきたい取り組みだと思う。(6月定例会にて一般質問をさせて頂いた。)

2 柏市のフレイル予防施策について

高齢期における新たな健康概念の「フレイル」。この「フレイル」とは要介護状態になる前に起こってくる身体・精神心理・社会性の虚弱の事で、この状態になるまでの適切な介入によって、健康な状態まで改善することが出来るという事が解った。柏市は早くからこの「フレイル」予防に積極的に取り組んでいる。

“柏フレイル予防プロジェクト2025”を策定し、様々な分野と連携して取り組んでおり、フレイルにチェックとして「指輪っかテスト」「イレブンチェック」などで予防の推進を図っている。重要な事は、前向きな気持ちで取り組む事だと話しておられた。

又、フレイル予防のための市民サポーターを養成しており、公募で60歳以上の高齢者が担い、各地域に行って活動を広く推進している。この度の視察で、フレイル予防の重要性と、それを行政だけでやるのではなく、市民の手による市民の為のフレイル予防の普及、啓発の活動の取り組みが多いに参考になった。

視察等報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 黒木靖治



下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者		経理責任者	
視察議員	黒木靖治			
期 間	平成30年5月16日(水)～平成30年5月17日(木)			
視 察 先	・千葉県柏市(柏市役所)			
視 察 用 務	・柏市フレイル予防施策について ・柏市教育委員会いじめ防止対策について			
視察先対応者	議会事務局職員・地域包括支援課担当職員・教育委員会担当課長			
概要及び所見	【視察内容】 柏市フレイル予防施策について			
	柏市では、要介護認定者が平成24年度から比較して平成37年には2倍になると見込まれるということで、健康寿命の延伸を目指して高齢期における新たな健康概念「フレイル状態」は、適切な介入によって健康状態まで改善することが可能な状態。			
	このため、できるだけ早く、自分の状態に気付き、意識変容、行動変容に結び付けることが必要だということで「フレイル予防」としての一般介護予防施策の推進に取り組みをされている。			
	また、フレイル予防推進体制として、平成28年3月より「柏フレイル予防プロジェクト2025」推進委員会でフレイル予防の普及・啓発と効果的な推進、地域における市民主体の活動の促進、フレイル予防に係る関係機関の連携・調整等について協議を行っている。			
	【視察内容】 柏市教育委員会いじめ防止対策の取り組みについて			
	柏市及び柏市教育委員会は、国の「いじめ対策推進法」第12条の規定、国の			

概要及び所見	「いじめ防止等のための基本的な方針」及び「柏市児童虐待及びいじめ防止条例」に基づき、いじめ防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するために、「柏市いじめ防止基本方針」を定めていて、基本理念として、「子供がいじめを苦しむ自らの命を絶つような事態は何としても防がなくてはならない」という強い決意で取り組むとされており、いじめの早期発見・早期対策・抑止力を目的とした2つの取組。
	①「ネットいじめを許容しない集団の雰囲気醸成のための授業の実施」
	②「STOPitアプリの導入」※62.1%の若者がインターネット空間を居場所と考えている現実。
	以上の取り組みをしていて、相談できない子供に対してセーフティネットの1つ、
	また、傍観者に対して解決方略の1つとして授業＋報告、相談しやすいアプリの
	導入することによって、133件の相談があった。(H30年3月31日現在)
	期待される効果として、正しいSOSの出し方に関する教育の推進、いじめの早期発見
	発見・早期解決・抑止効果、学校と教育委員会が協力して、いじめの解決に向けて
	取り組むことができる。また、相談件数が大幅に増加していることから、これまで相談
	したくてもできなかった子供たちの悩みを吸い上げることができている。
	【所見】
	三次市においても、「三次市健康増進計画」に基づいて、生活習慣病等の病気になることを予防する「一次予防」を重視し、子どもから高齢者まで市民一人ひとりがより健康になるための取り組みをしてきているが、少子高齢化は急速に進行していて、高齢化率は、全国、広島県をお回る値で上昇を続け、介護を必要とする高齢者も増加していて、三次市の一人あたりの国保医療費は増加傾向にある中で、いかに要介護者を減らし医療費および介護保険料を減らしていく事が重要であると思います。「いきいき健康日本一」をめざすという将来像をスローガンに掲げて「健康寿命の延伸」を指標として「いきいき・ともえ・プロジェクト」や「いききサロン」の取り組みをされているが地域によっては、地域の関係性が薄れている中で参加者が少ない状況をどのようにしていく事が重要になってくると思います。今後の状況を予想しながら早いうちから対応を考えていかなければならないと考えます。
	三次市においては、三次市いじめ防止基本方針を平成26年3月18日に策定されてその方針によって取り組まれているが「重要事態」の発生はないようであるが、全国ではいじめによる自殺がいまだに起こっていて社会問題となっている現状がある中で、教育委員会、学校関係者の隠ぺい体質がある場合が多いと感じます。先生などが自分の勤務評価を気にしてできる事なら知られたくないのではと思うような事例が多くなる。

